

令和3年3月24日

第17期 小平市緑化推進委員会

緊急提言

「小平市におけるナラ枯れ病対策の緊急提言」

令和3年3月24日

小平市緑化推進委員会

はじめに

第17期の小平市緑化推進委員会は令和4年3月中の提言に向けて、13名の委員で議論を重ねてきたところです。今般令和2年11月6日の第2回小平市緑化推進委員会で、委員からナラ枯れ病に対する懸念が表明され、さらにナラ枯れ病対策についての緊急提言の提案が同委員からなされました。これを受けて委員会で討議がなされ、その結果まずナラ枯れ病についての知見を確認することとなり、さらに小平市のナラ枯れ病被害状況の提出を求めました。令和3年1月22日の第3回小平市緑化推進委員会では学識経験書委員からナラ枯れ病についての概要説明があり、小平市役所からは小平市の令和2年度の被害状況調査報告はなされ、この概要説明と被害状況データをもとに討議がなされ、「小平市におけるナラ枯れ病緊急対策」を緊急に提言することとなりました。令和3年5月末日までに緊急の対策を講じることで来年度（令和3年度）の被害を軽減化できる可能性があり、令和2年度最後の第4回委員会（令和3年3月24日開催）で緊急に提言を行わないと来年度被害軽減のための時機を逸してしまうとの結論に達しました。小平市の宝である雑木林の緑を守るためには、今のこの時期に緊急提言を行うべき状況と判断し、ここにナラ枯れ病対策の緊急提言を行うものです。

ナラ枯れ病とは（詳しくは別添資料参照）

ナラ枯れ病はコナラ等を枯れ死に至らせるナラ菌による病気で、原因はカシノナガキクイムシ（以後カシナガといいます。）という甲虫が樹幹に穿入し、ナラ菌を媒介することにより発病します。生態的には、6月に前年カシナガで枯損したコナラなどから大量のカシナガが一斉に飛び立ち、特定のコナラ樹等に集中攻撃（マスアタック）し、夏中、穿孔・産卵を繰り返すことで秋口には枯れ死に至ります。枯れた材のなかで翌年に成虫となる幼虫が成長します。穿孔・枯れ死被害は、過去の他府県のデータでは5～10年ほど続くといわれています。

緊急の対策

カシナガに穿入されたコナラ等は昨年の東京都公園協会のデータでは40%近くが枯れ死に至ります。現在の対策として、枯れ死木の処理・ビニール等シートによる被覆・粘着剤塗布・等が現在最も行われている対策で、主に翌年度発生するであろう成虫を材の中に入っている幼虫のうちに駆除するという予防的措置が主となっています。これだけでは毎年枯れが進行する事態に陥り、高額な伐採および幼虫駆除処理費用が必要となり、雑木林の崩壊が加速度的に進行してしまいます。そこで静岡県農林技術研究所が開発したTWTトラップ（クリアファイル利用のトラップ）による駆除方法を提案します。静岡県のデータでは2ヘクタールのコナラ林では2年間にわたり実証実験を行いカシナガの捕獲数22万頭、同じ2ヘクタールの無処理区ナラ林と比較して枯れ死木率が1/3以下に抑えられたという結果が出ています（別添資料参照）。もちろん静岡との風土や環境の違いがありますから小平市で本当に効果があるか否かは疑問ですが、しかし装置制作自体が簡単であり、

経済的に安価で、試行的に行うことも可能な点で小平市がさしあたって実施することに価値ある駆除方法です。

何故この時期に緊急提言なのか

緊急提言が何故この時期に必要なのかは、推奨方法の TWT トラップは、カシナガ成虫が昨年被害木から飛び出す 6 月初旬から中旬にかけて最も多くの捕獲数が見込める駆除方法であり（別紙資料参照）少なくとも 5 月末から 6 月初めまでにトラップ設置を完了することが求められているからです。

ナラ枯れを取り巻く状況

カシナガ被害が最も多く想定される小平市のコナラ等の雑木林は江戸時代の新田開発依頼 360 年以上にわたって郷土を支えてきた貴重な文化遺産であり宝です。小平市民の我々はこの雑木林を守り、後世に伝えていく義務があります。

コナラ林は単に小平市が管理する雑木林等だけではなく、市内には小金井公園小平霊園・玉川上水・東京都保全地区、薬用植物園さらには津田塾大学や古くからの農家やその他民間の雑木林が存在し、それぞれに東京都の建設局・水道局・環境局・労働衛生局さらに民間所有者と多岐にわたっており各々が対策講じているところですが、被害程度も異なり対応策の違いもあるのが実情です。時間も迫っていますので小平市として最善の方法でカシナガに対処するしかありません。

準備および体制

TWT トラップ駆除を実施する際の作業としては、もちろんトラップ制作がありますが、5 月下旬までのコナラ樹への取り付け作業→設置 1 週間毎の点検→マスアタック木の発見（6 月上旬～7 月中旬まで連続的に実施）→TWT トラップのマスアタック木への集中設置等→駆除の確認があり多くの人手が必要となりますので、役所と市民有志の市民協働の形で参加者を募って実施する方策の検討も必要だと思われます。

カシナガが穿入しても生き残れる樹木なるように TWT トラップで防御し、最小費用でナラ枯れ病の一刻も早い収束を願うばかりです。